

【天の川】あまのがは

天の川・七夕 Q&A

①Q天の川って何？

A天の川は漢語で銀漢・天漢・河漢・星河、いわゆる銀河のことです。「漢」は湖北省の大河 漢水に因むようです。

言うまでもなく銀河系には地球の属する太陽系も含まれます。その総体は恒星とそれに伴う惑星の集合で、渦状に、凸レンズのような中央に厚みのある円形を成しているそうです。直径は 10 万光年、中央の厚みは 1.5 万光年、太陽系の位置は銀河系中心から約 3 万光年、厚みは 0.5 万光年ということです。

銀河系は約 2000 億個の恒星のほか、惑星状星雲、散開星団や散光星雲などで構成されているそうです。

それにしても 10 万光年なんて目まいがしそうな距離ですね。どうやって測定したのでしょうか。

一般的に天の川というとき銀河系に限らず流れ星(隕石)など、晴れた日の夜に光の帯となって肉眼で見える大星群全てを含んでいるようです。

・天の海に雲の波立ち月の舟星の林に漕ぎ隠る見ゆ 『万葉集』人麻呂歌集

この歌は天の川を「星の林」と表現しています。『万葉集』にはそのほか「星の海」という表現も見られます。

②Qなぜ「七夕[しちせき]」を「たなばた」と読むの？

A七月七日、七夕[しちせき]は五節句のひとつのことですが、中国ではこの日に乞巧奠[きかうでん]といって女子が裁縫の上達を願うお祭りをしていました。

「たなばた」とは棚機、つまり機織[はたおり]の道具のことです。さらに、はたを織ること、織る人のこともいうようになりました。奈良時代に乞巧奠の風習が日本に伝わり、いつしか七夕[しちせき]の文字を乞巧奠に因み「たなばた」と読むようになったのです。

日本では奈良時代以前から伝わっていた祭りですが、『延喜式』に『七月七日、織女祭』の記載が見られ、平安時代初期には宮中でも何らかの行事があったようです。

③Q織姫・彦星ってどんな星？

A織女星(琴座 Lyra α 星 Wega)、牽牛星(鷲座 Aquila 星の Altair)のことで、ともに銀河系の恒星です。

古代中国では農耕社会特有の星への関心から星の観察は驚くほど進んでいました。この星の名はすでに『詩経』小雅・大東(紀元前 470 年頃)に見られます。ただし、二星のめぐり逢い伝説は『詩経』には確認できません。

④Q二星のめぐり逢い伝説はいつから始まったの？

A二星のめぐり逢い伝説をほのめかしている詩が『文選』に見えます。

・古詩十九首 其の十

迢迢たり牽牛星 皎皎足り河漢の女

織織として素手を擡げ 札札として機杼を弄す  
終日章を成さず 泣涕零ちて雨の如し  
河漢は清く且つ浅し 相去ること復た幾許ぞ  
盈盈たる一水の間 脈脈として語るを得ず

『文選』 卷二十九より

『文選』は530年頃の成立ですが、この詩は後漢末頃の詩と考えられているようです。これ以前の史料がお分かりの方、ご教示くださいますでしょうか。

その他6世紀中期の『荆楚歳時記』にも「七月七日、牽牛、織女、聚会の夜と為す」とあります。二星のめぐり逢い伝説は三世紀には民間伝承として成立していたと思われま

⑤Q 鵲[カササギ]とはどんな鳥なの？

A 朝鮮半島・九州・台湾に住むカラス科の鳥です。おながに似た姿で光沢のある黒色、肩・胸・腰は白です。留鳥ですので季語にはなりにくい鳥です。

中国では幸福を呼ぶ鳥といわれてきました。

既に『淮南子』（前漢）に見られる名ですが、二星の恋の橋渡しをする話は『淮南子』には見えません。

恋の橋渡しをする鵲は唐詩に数編見つけましたが、それ以前の史料を私は知りません。

唐以前に恋の橋渡しをする鵲の史料をご存知でしたらご教示くださいますでしょうか。

日本では『日本書紀』推古六年（598）に新羅よりつがいでもたらされたことが記されています。しかし、難波で畿内に生息するには至らなかったようで、貴族の間で漢文化としてその名と伝承を受容したに留まりました。

しかし、江戸時代初期に再び朝鮮より持ち込まれ九州に生息するようになったということです。

⑥Q 関連する銘にはどんなものがあるの？

A ・鵲の橋・鵲・河漢 ・銀漢 ・天漢・銀河・天の川・天の海 ・星の林・七夕・牽牛・織女 ・乞巧奠 ・短冊 ・笹葉・笹舟・星合の空・関寺小町などが浮かびます。

語彙、発想が乏しく類似する語の羅列となってしまいました。このほか関連の銘をご存知であればご紹介ください。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

～ Copyright (C) 2011 ～私の書齋～ 森田文康. All Rights Reserved.～